

「感謝！フィリピン遠征」

17才以下男子 諫山 航平（相生学院高等学校）

高校に入って、初めての年始年末をゆっくりと味わう間もなく、寒い日本を離れて暑いフィリピンへ向かいました。

僕は、県外の中学校から兵庫へ来ましたが、以前からフィリピン遠征があることは聞いて知っていました。「外国でテニスができるなんていいなあ」、「外国の選手とテニスをしてみたい」、「羨ましい」などと思っていましたが、まさか自分が行けるとは思っていませんでした。だから選ばれたと聞いた時はとても驚き、嬉しく思いました。

しかし、出発の日が近づいてくるとだんだん不安が大きくなってきました。一つは、兵庫県代表として行って自分のテニスが向こうで通用するだろうかという事でした。僕は体格も大きくなく、スタミナにも自信がありません。真夏のようなフィリピンで慣れないコートで勝てるのだろうかと思いました。

もう一つの不安はホームステイです。今まででも海外の合宿に参加したことはありましたが、宿泊はホテルで日本からの参加者ばかりでした。今回のようにファミリーの一員となって過ごすのは初めての体験です。英語が苦手な僕がホストファミリーの方とうまくコミュニケーションがとれるだろうか、とてもとても不安でした。でもその不安はすぐに消えてしまいました。

シェルコートは初めはとてもやりにくかったですが、慣れてくるとかえって高い打点で打てるようになり、今まで打点を落とすすぎてハードヒットできなかつたのがとてもよくわかり、いいショットが打てるようになり、この遠征での一番の収穫となりました。これを日本でも忘れないようにしたいと思います。

反対に課題も見つかりました。タフマッチのとき5-3リードから逆転負けをした試合がありました。着いてすぐで暑さに慣れていないというのもありましたが、ドロップショットで走らされて体力を消耗して足が動かなくなってしまうました。勝負を早く決めなかつた戦術ミスもありましたが、スタミナ不足という課題がはっきりわかりました。やはりフィリピンの人たちはこの暑さの中、毎日テニスをしているので体力が落ちることなくラリーができるのだと思いました。

ホームステイの不安もホストファミリーの方がマニラでも、セブでも大歓迎して下さって朝早くからの送迎から食事の用意、買い物など何から何まで気を配って下さって、ファミリーの一員として楽しく過ごせました。特にマニラではホストファミリーのイケ君と片言の英語ながら冗談を言い合うくらい仲良くなることができ、もっとフィリピンにいたいと思えるくらい楽しかったです。

この十日間を終えて、正直体力的にきついこともありましたが、僕にとって多くの課題を発見すると共にさまざまな新しい経験ができ、体力面・精神面を大きく成長させてくれたと思います。僕の尊敬するコーチが僕がまだテニスはじめて間もない頃、テニスはラケット一本あればどこへ行っても友達のできるすばらしいスポーツだ、と言ってくれたことを思い出しました。僕はテニスをしているおかげで日本だけでなく外国にも友達ができ、本当にテニスをしていてよかったと思いました。

今回、このようなすばらしい機会を与えて下さった坂本会長や協会の方々、サポートして下さったコーチのみなさん、カメラマンの小川さんに感謝すると共にフィリピンで僕たちを家族同様に歓迎して下さったホストファミリーのみなさんに本当に感謝しています。この貴重な体験を頂いた分、もっと成長して将来またフィリピンのジュニア達と試合で再会したいと思っています。

本当にありがとうございました。

